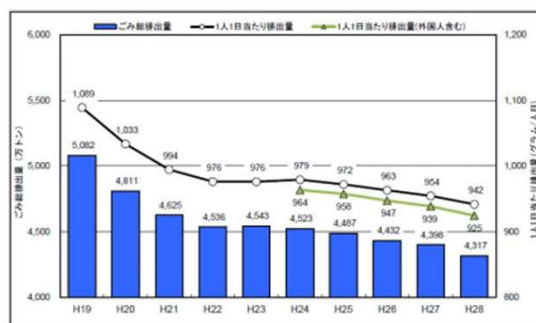


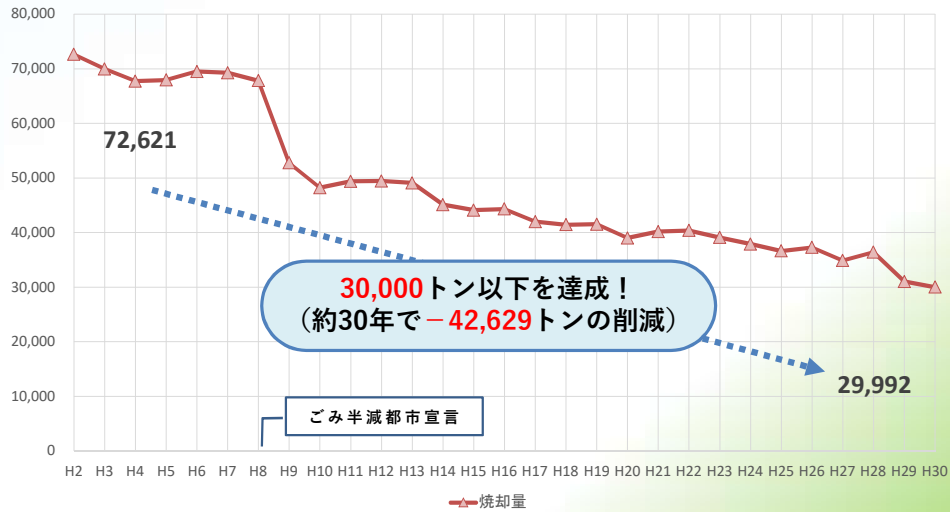
鎌倉市のごみ処理行政について

国内におけるごみ総排出量の推移



	平成19年度 (2007年度)	→	平成28年度 (2016年度)
ごみの総排出量	5,028万トン		4,317万トン
焼却施設の数	1,243施設		1,120施設

鎌倉市におけるごみ焼却量の推移



鎌倉市の処理施設等について



鎌倉市の燃やすごみの処理施設について

◎名越クリーンセンター

- 現在、市内唯一の焼却施設。
- 1年間で約3万トン进行焼却処理。
- 令和7年(2025年)3月で焼却を停止する予定。

◎今泉クリーンセンター

- 平成27年(2015年)3月をもって焼却を停止。
- 1年間で約1万トン进行焼却処理していた。
- 現在は、事業系のごみを受け入れて、名越クリーンセンターへ搬送する中継施設として使用している。

4

新焼却施設の整備に向けたこれまでの経緯

- 平成27年4月にエネルギーの有効利用の観点で優れているといった理由から、山崎下水道終末処理場未活用地に候補地を決定しました。
- 周辺住民からは、既に下水道終末処理場がある中で2つの施設は受け入れられないとの理由から、焼却施設建設について、白紙撤回を求められていました。



周辺住民との話し合いは平行線となっていました。

5

将来のごみ処理体制についての方針

廃棄物処理を取り巻く状況を考慮しつつ、本市における最適なごみ処理体制について改めて検討しました。

- 日本全体でごみ量が減少しており、焼却施設の余剰分は相当多くある。(ごみ量は平成19年度と比較し15%減少)
- ごみを受入れる民間事業者が増加しており、処理価格も下がってきている。
- 鎌倉市がSDGs未来都市として選定され、さらに環境面において積極的に取り組む立場となった。

令和11年度(2029年度)の焼却量(試算)

28,980トン → 9,998トン

ゼロ・ウェイストを目指した削減量

18,982トンの削減

家庭系

生ごみ 6,464トン
紙おむつ 1,507トン
その他 946トン

計 8,917トンの削減

事業系

生ごみ 2,253トン
紙おむつ 762トン
その他 7,050トン

計 10,065トンの削減(全量)

新焼却施設を建設する場合と 建設しない場合について

3つの観点から評価

安定的な
ごみ処理

財政面

環境面

安定的なごみ処理

- 焼却施設を建設する場合には安定性が高い。
- 焼却施設を建設せずに民間に委託して処理する場合でも事業者とバックアップ協定を締結して処理することで、安定的な体制の補完可能。

財政面

- 焼却施設を建設する場合
30年間で、約290億円の費用がかかる。
- 焼却施設を建設しない場合
30年間で、約220億円の費用がかかる。

環境面

- 焼却施設を建設する場合よりも、建設しない場合のほうがCO₂発生量が少なく、環境負荷が低い。

焼却施設を建設せずに
ゼロ・ウェイストを目指して
ごみの減量・資源化を進める方向に
方針転換を行うこととしました。

焼却施設を整備しない考え方について（1）

◎人口動態とごみ量の予測

・ゼロ・ウェイストを目指した減量・資源化を行うことで、令和11年度(2029年度)には、燃やすごみの量は約1万トンとなります。

人口減少により、その後も減少していくと試算しています。

（逗子市、葉山町と合わせて2市1町でも約2万トン）

焼却施設を整備しない考え方について（2）

◎新たな焼却施設を建設する場合の条件

- 新たに焼却施設を建設する場合は、エネルギー回収を行うために、最低でも日量100トン程度(年間27,000トン)の規模とする必要があります。
- 現在、日量100トン以上300トン未満の施設を設置している地域では、日量300トン以上(年間81,000トン)の規模を検討することが求められています。

焼却施設を整備しない考え方について（3）

◎新技術の実用化の進捗

- これまで資源化が難しかった混合ごみについても、乾式メタン発酵やバイオエタノール化といった、新たな資源化技術が確立し始めており、資源化が可能となってきました。
- 新たな技術を活用し、更なる資源化を進めることでごみを大幅に削減することが可能となります。

焼却施設を整備しない考え方について（４）

◎国の広域化・集約化のさらなる推進

- 国は、人口減少、老朽化した社会資本の維持管理・更新コストの増大、ごみ処理に係る担い手の不足等が課題となっている中で、**広域的な処理や施設の集約化**を進めるべきと、示しています。
- 広域化、集約化の主な手法として、**民間活用**の考え方も示されています。

焼却施設を整備しない考え方について（５）

◎今後の焼却処理の考え方

- **焼却施設を整備せず**にゼロ・ウェイストを目指して、**ごみの減量、資源化を進める**ことが、鎌倉市の将来のごみ処理体制を構築する方策として妥当であると考えています。